

進路だより *Success is A Team Sport*

(第1号)

過去3年間の国公立大学及び主な私立大学の合格件数

【国公立大学】(所管外学校含む)

【私立大学】

大 学	令和2年	平成31年	平成30年
北海道大	2(1)	1	1
室蘭工大	1		
弘前大	1		
東北大	2(1)	3(1)	
秋田大			1(1)
茨城大			2(1)
筑波大	4	1	4
宇都宮大	5	3	1
群馬大	3	2(1)	1(1)
埼玉大	29(1)	15(2)	26
千葉大	7(4)	4	5(1)
東京海洋大	4	1	
お茶の水女子大			1
電気通信大	1		
東京大			1
東京外国語大	1	4	2(1)
東京学芸大	6	2	7
東京工業大	2		1(1)
東京農工大	4	2	3(1)
横浜国立大	4	2	1
新潟大	1		1
富山大	1(1)	2	
山梨大	1		
信州大	4(1)	1	3
静岡大	1		
浜松医大	1(1)		
神戸大	1		
広島大	1(1)		
九州工大		1	
鹿児島大			1
琉球大	2(1)	1	
群馬県立女子大	2	1	
高崎経済大	3(1)		2
埼玉県立大	13(1)	4	10
千葉県立保健医療大	1		2
東京都立大	8	4(1)	9
都留文科大	1	2	1
大阪府立大	1		
島根県立大		1	
防衛医科大	2		
国立看護大	4		1
防衛大			1
合 計	124(14)	57(5)	88(7)

大 学	令和2年	平成31年	平成30年
獨協大	57(6)	46	36(1)
文教大	41(2)	29	29(3)
青山学院大	19(4)	16(2)	19
亜細亜大	13	10	7
大妻女子大	17	10	10(1)
学習院大	21(3)	33(4)	29(4)
共立女子大	24	10	16
慶應義塾大	4(1)	3(2)	5
工学院大	10(1)	8	6
国際基督教大	1	1(1)	1(1)
駒澤大	30(2)	19(1)	23(3)
芝浦工業大	59(13)	29(1)	46(2)
順天堂大	8	1	7(2)
上智大	9(3)	10(7)	11(1)
昭和女子大	41	45(1)	30
女子栄養大	16	8	3
成蹊大	21(3)	13(1)	24(4)
成城大	13(2)	14(3)	20(6)
専修大	20(2)	13(3)	11(1)
大東文化大	42(3)	24(5)	32(2)
中央大	24(6)	28(2)	29(3)
津田塾大	5	8(2)	11
帝京大	17	10(1)	13
東京家政大	45(1)	28	24(1)
東京女子大	13	10(2)	20
東京電機大	27	15(1)	38(3)
東京農業大	40(1)	17(4)	33(3)
東京理科大	34(5)	9(1)	23(4)
東洋大	136(13)	116(10)	116(5)
日本大	83(7)	78(12)	89(10)
日本女子大	16	19(1)	36
法政大	64(7)	83(13)	51(6)
武蔵大	28(3)	25(2)	15
東京都大	9(3)	4	2
武蔵野大	20(1)	9	9
明治大	66(8)	67(14)	39(4)
明治学院大	6	5(1)	9(1)
明治薬科大	8	9	6(1)
早稲田大	54(8)	54(7)	37(2)
立教大	29(4)	30(1)	15(3)
その他	318(19)	210(19)	211(14)
合 計	1529(134)	1191(126)	1207(93)

数字は現役＋浪人の合計数

()内は浪人、内数

蕨高の令和2年度入試結果（61期生）

令和2年度入試の国公立大の現役合格者は110名で、蕨高校創立以来の最高記録となりました。卒業生の4人に1人が国公立大に進学することになりました。いわゆる難関国立大（旧帝大＋東工大・一橋大・神戸大）では、東工大に2名、北海道大・東北大・神戸大にそれぞれ現役で1名、また浪人生ですが浜松医科大学の医学部に1名が合格しました。特筆すべき点は後期試験で17名が合格し、最後まであきらめない、蕨高生らしい粘り強さを見せてくれたことです。後期試験は3月12日に行われ、合否がわからないまま14日の卒業式を迎え、合格発表は20日という日程のため、精神的な強さが要求されます。国公立大を目指している人は先輩

たちを手本にして後期試験まで頑張るつもりでいてください。地元埼玉大の合格者は28名で、国公立大の中では最大の合格者数でしたが、北海道大や新潟大、信州大（3名）、琉球大などの全国に広がって合格者が出たのは例年通りの特徴です。特に理系の国公立大志望者は全国を視野に入れて大学を選ぶべきです。ここ数年、理系は大学院まで行くことが当たり前になっているので、地方の国公立大を出た後、大学院は東京大や東工大のような東京圏に戻って来ることをお勧めします。理系であれば、東京の私立大に自宅から通う費用と下宿をしながら地方の国公立大に通う費用はほぼ同じです。魅力のある国公立大は全国に広がっています。

私立大でも健闘し、早慶上智の合格者が34名（前年比1名増）、GMARCHの合格者が212名（同27名減）でした。東京理科大が29名（同21名増）、芝浦工大が46名（同18名増）のように今年は国公立大も含めて理系の活躍が顕著でした。全国的な傾向として、早慶上智やGMARCH、さらに日東駒専でも志願者が大幅に減少しました（日本大は除く）。この「超安全志向」の傾向は来年度入試でも続くと予想されるので、君たちは強気で受験校を決めるべきだと思います。

この全国的な弱気な出願状況は国公立大にも現れています。予定されていた2021年度の大学入試改革の不安とセンター試験の平均点ダウンが影響し、国公立大の志願者は大きく減少しました（前期で前年比30,271名減）。全国の高校生が国公立大を敬遠する状況下で、模試の判定どおりの結果が出ず、ギャンブル性が高かった私立大に比べて、国公立大は予想通り、いやそれ以上の結果が出たと言えます。私立大はすべて不合格だったが、国公立大には合格できた生徒が複数いたように、受験科目が多い分、安定した結果を残せるのが国公立大であるとも言えます。

難関国立大にしろ、早慶上智にしろ、当たり前ですが、受験しなければ合格はしません。たとえ、模試の判定が悪くても、その大学が第1志望ならば絶対に受験するべきです。蕨高生は自分の能力を過小評価する傾向があります。自分の力を信じて、常に目標は高く持ってください。今年の『進路のしおり』（5月中旬に配布）の受験体験記を読めばわかりますが、常に挑戦しようという気概を持つ者が合格を勝ち取っています。

蕨高生のここ数年の進路実績にはめざましいものがあります。先輩にできたのだから後輩にもできる。それが伝統の力です。君たちも挑戦を続けて、新たな伝統を創り出し、後輩たちに更なる「勇氣」と「誇り」を残して卒業してください。

ピンチをチャンスに

新型コロナウイルスが猛威を振るい、世の中のシステムが大きく変わろうとしている最中に君たちは受験生になりました。患者さんたちの苦しみはもちろん、医師や看護師をはじめとする医療従事者たちの命をかけた奮闘と献身ぶりが伝えられる中で、君たちは肅々と来る受験のために準備を進めなければなりません。部活もいつ再開できるかわからない状況の中で、もはやすべての62期生が覚悟を決めて受験勉強を始めたことでしょう。そうです。君たちがやるべきことははっきりとしています。

しかし、残念ながら授業は再開できず、肝心の手段が限定されています。一方、発症数が低い地域では、学校が始まり、普通に授業がある状態です。もちろん受験は全国の高校生との競争です。このハンデを乗り越えなければ合格は勝ち取れません。もし、未だに受験勉強に着手していない人がいたら一刻も早く行動を起こすべきです。

まずは自分にどんな手段があるのか確認しましょう。これまでに使用した教科書や参考書、問題集を活用する。新しい問題集を購入する。スタディサプリやBenesse マナビジョンのようなネット授業・教材を利用する。『進路のしおり』（2冊ある）にある受験体験記を読む。電話で先生に相談する。国公立大・私立大志望にかかわらず、まずは主要な教科、つまり文系ならば、英・国・社、理系ならば英・数・理から始めます。難問には手を出さずに基礎からしっかり固めていきましょう。

部活動再開に向けてのトレーニングも怠ってはいけません。ランニング、筋トレ、ストレッチ等、1日2時間毎日やりましょう。運動部でなければ1日15分でも効果があります。運動を勉強の合間に取り入れることで脳が活性化し、記憶力や理解力が各段に向上します。

緊急事態宣言が出された地域の高校生たちはモチベーションが下がるかもしれません。意図せずにだらだらと過ごしてしまうかもしれない。ならば、今こそチャンスです。自分の思いのままになる時間はかつて経験したことがないほどたくさんあります。思い切り受験勉強に費やすのです。有り余るほどの時間が逆にチャンスとなります。むしろ普通に授業をしている地域の高校生を超えることもできます。

もちろん、学校が再開した時には、ありとあらゆる手段を講じて先生たちは君たちを全力でサポートします。そのための準備を我々は、着々と進めています。

再会を楽しみにしています。がんばれ！62期生！

（文責 進路指導主事 高橋康文）